



発行

財団法人 東京都生涯学習文化財団

東京都埋蔵文化財センター

〒206-0033

多摩市落合1-14-2

☎ 042-373-5296

たまのよこやま

東京都埋蔵文化財センター報 No. 53

平成13年11月6日

<http://www.tef.or.jp/maibun/>



▲ 江戸時代の石垣調査風景

秋葉原地区の発掘調査

秋葉原分室 栗城 譲 一

秋葉原地区（外神田四丁目遺跡）の発掘調査は、6月下旬に着手しました。JR秋葉原駅電気街口側の広い駐車場の一部が発掘範囲となります。13年前まで神田市場があった所です。現在の地表であるアスファルトを剥がすと市場開設直前の生活面（関東大震災で焼けた大正時代の面）が出てきます。ここから、徳川家康が江戸城下建設を始めた16世紀末頃までの遺構面を掘り下げているところです。

調査区南端では街路（道路）と石積みの大規模な堀割が出てきました。調査区中央でも街路が出ています。双方の街路とも現在の秋葉原電気街の道とはほぼ一致し、江戸時代の町割りですが、現在でも生きていることがわかります。

9月は度重なる台風と秋雨前線に悩まされました。雨の日は冠水し、苦勞して掘りあげた遺構が泥に覆われてしまうことも度々でした。しかしこうした中でも、この地表下1.5mのあたりから1707年（宝永4年）に噴火した富士山の火山灰が見つかっており、各遺構や生活面の年代決定の上で有力な指標となっています。

遺物は、水洗いを始めたばかりなので、詳しいことはこれから明らかになっていきますが、出土量は多く、3月の発掘終了までには破片点数にして30万点を超える量が予想されます。

発掘調査は作業員120名体制で行っており、この中には三宅島から避難してきた方々も含まれています。皆さん、土と格闘しながら元気に江戸を掘っています。

遺跡だより ⑥1



武蔵国分寺跡関連遺跡
— 武蔵台西地区 —

旧石器時代の礫群

今回紹介する武蔵国分寺跡関連遺跡は多摩川支流の野川上流域に位置し、国分寺市と府中市にまたがる東西約2.2km・南北約1.8kmの広い範囲におよんでいます。その名が示す通り、武蔵国分僧寺・尼寺を中心に、東山道武蔵路をはじめ数多くの掘立柱建物跡・住居跡・工房跡などが調査されており、南側に近接する武蔵国府関連遺跡とともに、古代武蔵国の中心地となっていた場所です。またこの付近一帯は、都内でも旧石器・縄文時代の大規模な遺跡が、数多く分布する地域としても知られています。

本遺跡の発掘調査は都道建設にもなうもので、調査箇所は遺跡西端部の、府中市でも国分寺・国立市との市境に接した場所にあたります。地形的には武蔵野台地南西部の国分

寺崖線から、武蔵野段丘面上にかけての範囲に位置しています。調査は昨年の8月から断続的に実施していますが、ここでは昨年度の調査成果を中心に紹介します。

昨年度は、崖線斜面から段丘面上にかけての範囲を対象に調査を行いました。その結果、旧石器時代から近世以降にまでおよぶ各時代の遺構と遺物が検出されています。

この中でも主体を占めていたのは旧石器時代のもので、立川ローム層のIV層上部・X層にかけて、合計7枚におよぶ文化層（遺構・遺物の検出される層）が把握されています。遺構としては石器集中部16箇所・礫



縄文時代の土坑

群（焼石料理跡）28基・炉跡状遺構2基・炭化物集中部5箇所が検出されています。調査区北西部の崖線斜面には浅い埋没谷が入り込んでいて、石器集中部や礫群の多くは、これを巡るような状態で分布していました。

出土した石器には、石斧・ナイフ形石器・角錐状石器・ドリル・礫器・石核・剥片・など多種多様なものがあります。その岩種には、チャート・凝灰岩・ホルンフェルス・珪質頁岩など、比較的遺跡の近くで採取可能なものと、黒曜石・安山岩・硬質頁岩のように遠隔地から運ばれてきたものが認められています。ちなみに黒曜石はその分析結果から、伊豆・箱根産のものが多数を占めていることが判り、当時の交易圏の一端をうかがい知ることができそうです。

また今回の調査で最も注目されたのは、立川ローム層のX層中から検出された遺構と石器群の存在です。遺構としては、炭化物の詰まった炉跡状の落ち込みや、火を使用した痕跡とみられる炭化物の集中箇所も確認されています。また出土した石器には、打製石斧・局部磨製石斧（刃先を磨いた石斧）・ドリル・石核・剥片・碎片などがあります。これらは今から約3万年以上前のものと考えられ、武蔵野台地では最古のもの



X層の石斧出土状態

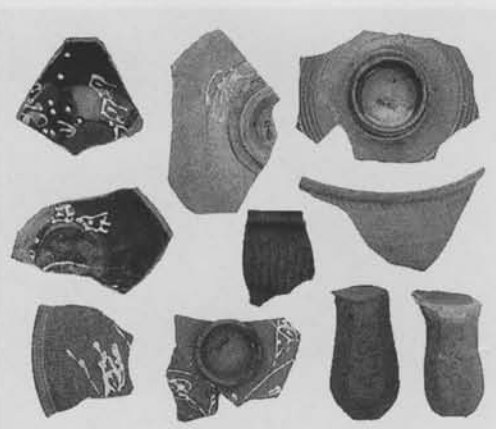
となります。調査区近隣の同じ国分寺崖線上に所在する多摩蘭坂遺跡・武蔵台遺跡（府中病院地区）などでもX層の資料が数多く出土しており、本遺跡との関連性が指摘されます。

今年度の調査は、昨年度調査範囲の北側に続く段丘上の平坦面を対象として10月に着手したばかりですが、これまでのところ近世以降の溝跡や古代の墓壇（火葬墓）・土坑などが検出されています。遺跡の内容としては、昨年度と同じく旧石器時代を中心としたものと考えられ、今後の成果が期待されます。

（川島雅人主任調査研究員）
（大西雅也調査研究員）

文化財講座 <43>
大江戸掘りもの帖 ~二十~

内藤町遺跡出土の「飯能焼」
内藤町遺跡は、信濃高遠藩主内藤家の四谷屋敷跡として知られ、過去に数回の調査が行われているところです。平成十二年度に実施した調査地点は遺跡の西端にあたり、武家屋敷ではなく、むしろ内藤新宿に関連する遺構と遺物が多く検出されました。今回は、出土品の中から飯能焼について紹介します。



内藤町遺跡から出土した「飯能焼」

「飯能焼」は江戸末期から明治二十年頃まで埼玉県飯能地域の窯で生産され、これまでは一部の伝世品しか残されておらず、幻の焼物とされてきました。ところが、近年操業窯の一つである原窯跡が調査され、焼物の実態が明らかになってきました。原窯製品の主な特徴は「緑褐色透明釉」を掛けることや、器表面に白泥によるイッチン文様を描く点にあります。文様のモチーフは秋草や龍を主体とし、とくに鍋蓋にダイナミックに描かれています。また、皿には愛らしい千鳥と波を表現するなど、その筆致は繊細と言えます。内藤町遺跡からは、全部で四十数点にのぼる原窯製品の破片が検出され

ていて、以前の調査でもその存在が確認されています。現在、新宿駅南口にあるタイムズスクエア地点の発掘調査でも、原窯産の焼物が報告されており、なぜか内藤新宿近辺から多く見つかっています。飯能周辺の出土品が少ない点からみて、これらの焼物は青梅街道や甲州道中をへて、江戸向けに生産され、流通した可能性も考えられます。製品に皿や土瓶・土鍋など、庶民が日常使用するものが多いことも、宿場町での需要を促進したのかもしれない。

本遺跡からは飯能焼の他に、在地系と考えられる焼物も多く出土しており、こうした江戸近郊の窯業生産とその流通に関して、今後検討していく必要があります。

(松崎元樹主任調査研究員)

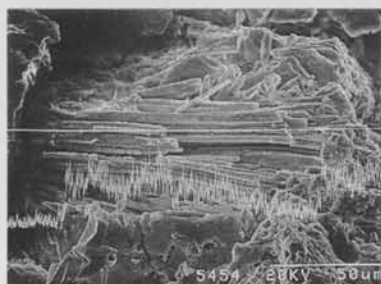
保存科学室(ぼれ話)(十七)

赤色顔料について(6)

今回は、酸化第二鉄が主体の顔料のうち、パイプ状物質の生成について考えてみます。

近年、京都造形芸術大学の岡田文男氏の「パイプ状ベンガラ粒子の復元」についての発表によると、縄文時代から古墳時代にかけて用いられたパイプ状ベンガラは、崖端の遊水部や池中に沈殿した糸状体を形成する鉄細菌の生産物を燃焼した結果得られたものと判断されている。それでは、次に別なパイプ状物質を紹介いたします。

今回紹介する資料は、都立府中病院内で調査された縄文時代早期前半の燃糸文期の住居内覆土から出土しています。遺物は、暗赤褐色で0.3mm



1) 鉄 (Fe) 化合物の断面分析 (×1000)



2) 鉄 (Fe) 化合物の拡大写真 (×1500)

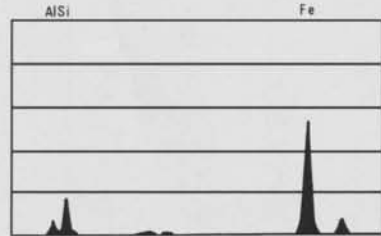


図1) 鉄 (Fe) 化合物のX線分析スペクトル

以下の石英・長石類・黒雲母を含む岩片です。手で触れると粒状になるほどに風化しており、同時に赤い顔料らしき物質が手に付着します。そのため調査担当者から、無文土器などの表面に赤色顔料として使用された可能性がないか否かを分析してほしいと依頼を受けた資料です。

この資料を走査型電子顕微鏡で観察すると石英や長石類の粒と粒の間隙部分に整然と並んで棒状の物質が見られます(写真1・2、図1)。

このパイプ状物質は、従来の見城敏子等(1988)が報告したものは生成が異なる可能性があるが、どのような条件下で生成されるかを知る上で重要な一例と考えられる。今後は、岡田氏が述べる沼地の鉄細菌について検証するとともに他に生成条件がないものかを検討する。

(上條朝宏主任調査研究員)

文化財講演会

第一回は、7月14日(土)北区教育委員会中島広顕氏による「都心に眠る縄文文化の再発見―国史跡中里貝塚とは―」の講演と、「伊皿子貝塚遺跡」の映画を上映しました。

参加者は、114名でした。

第二回は、9月12日(水)、東京都文化課学芸員可児通宏氏による「多摩丘陵における縄文集団」の講演と、「最後の石器人―ソカイ―」を上映しました。

参加者は、150名でした。



佐藤正好氏の講演

第三回は、10月13日(土)茨城県立歴史館学芸第二室長佐藤正好氏による「いにしえ人の顔」の講演と、

「舞うがごとく翔ぶがごとく―奥三河の花祭り―」を上映しました。

参加者は、110名でした。

安全の日

全国安全週間、第18回東京都埋蔵文化財センター安全の日(7月2日)に、安全標語の入選作発表と、講演を行いました。

標語第一席は、

だいじょうぶ

思い込まずに まず点検

講演は、南多摩保健所地域保健推進室情報担当係長、佐藤壽志子医師による「肩凝りの予防と骨粗鬆症について」でした。

縄文土器作り教室

8月9日(木)・10日(金)土器製作、9月8日(土)野焼き、全3日間の行事です。



多数の応募の中から抽選で選ばれた、親子16組、一般21名の参加者で行われました。

今回は親子ふれあいキャンペーンも兼ねていたので、親子の参加が多くなりました。

難しい整形を見事にこなし、焼成の結果、全員無事完成させることができました。

自衛消防訓練

10月24日(水)に多摩消防署の協力を得て、消防訓練を行いました。

今回は初めて、煙体験ハウスによる避難訓練を実施しました。



親子ふれあいキャンペーン
火おこし体験・「縄文の村」探索

10月27日(土)、25組の親子、60名の参加がありました。火おこしをはじめ、泥めんこ作り、庭園内自然観察等、多彩な内容を楽しんでいただけでしょか?



外神田四丁目遺跡現地説明会

日時 平成13年12月15日(土)

12時~15時(小雨決行)

場所 千代田区外神田4-14

交通 JR秋葉原駅電気街口
徒歩5分

内容 江戸時代の町割など

問合せ 当センター

TEL 042-374-8044

秋葉原分室(当日のみ)

TEL 03-5294-3381

分室の開設

9月以降、新規の分室です。

長房分室 甲崎光彦係長、
福嶋宗人、並木 仁

高野台分室 甲崎光彦係長、
岩橋陽一、松井和浩

乃木坂分室 甲崎光彦係長、
田中純男、西山博章

北新宿分室 千葉基次係長、
小林 裕

府中南分室 比田井民子係長、
武笠多恵子、武井利

戸吹分室 岡崎完樹係長、
今井恵昭、竹田 均



古紙100%配合の再生紙
を使用しています。